

第3学年 外国語活動学習指導略案

1組 計35人(男子21人, 女子14人)

指導者 野口 桃子

1 単元 HAPPY大作戦 ～カードをおくろう～

(Let's Try! 1 Unit 7 「This is for you.」～カードをおくろう～)

2 単元の目標

- 日本語と英語の音声の違いに気付き, 形の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。【知識及び技能】
- 目的や場面, 状況等に応じて欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。【思考力, 判断力, 表現力等】
- 相手に自分の考えや気持ちが伝わるよう工夫しながら, 主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。【学びに向かう力, 人間性等】

3 単元で目指す子供の姿

主体性	課題解決に向けて, 形の言い方や, 欲しいものを尋ねたり答えたりする表現を使って, 自信をもって積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
協働性	自分の思いや考えを友達と伝え合うことで, 互いの表現のよさに気付いたり, よりよい表現に対する考えを深めたりしている。
創造性	オリジナルのグリーティングカードを作成するために, 既得の知識を活用し, 目的や場面, 状況等に応じて, 欲しいものを尋ねたり答えたりしようとしている。

4 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは, 相手意識をもって, 表情やジェスチャーを工夫してあいさつをしたり, 好きなものを伝えたりする活動を通して, 話せる英語が増える喜びや英語でコミュニケーションを図ることの楽しさを味わっている。しかし, 与えられた表現での機械的なやり取りで終わる場面も見られ, 目的や場面, 状況等に応じた適切な表現を考えたり, 既得の知識を組み合わせたりやり取りをしたりする子供は少ない。

そこで本単元では, 喜ばせたい相手を選んでグリーティングカードを贈る「HAPPY 大作戦～カードをおくろう～」を単元のゴールに設定する。この単元で, 新たに形の言い方に慣れ親しませ, 色や数の言い方と組み合わせて, “Two red circles.”のように, 欲しいものを具体的に表現できる喜びを感じさせたい。そして, 買い物ごっこの形式で友達とやり取りする中で, カード作りに必要な色・形カードを集める活動を設定することで, 欲しいものを伝えたいという必要感をもつようにする。さらに, 買い物の場面で, 既得の知識を組み合わせ, 店員と客の適切なやり取りについて考える場を設定し, 豊かな言語活動が行われるようにしたい。

この単元で学習する, 欲しいものを尋ねたり答えたりする表現は, 第4学年 Let's Try! 2 Unit 7 「What do you want?～ほしいものは何かな～」でも扱われるため, 十分に音声に慣れ親しませるとともに, 欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に自信をもてるようにしたい。

5 指導計画(全6時間)

過程	学習課題	課題解決に迫る主な学習活動
意欲をもつ(1)	世界の行事を知ろう。	外国の行事やカードを贈る習慣があることを知る。「HAPPY 大作戦～カードをおくろう～」という単元のゴールを確認する。
慣れ親しむ(2)	何がほしいかたずねたり, 答えたりしよう。(本時)	チャンツやゲームを通して, 形の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
広げる・深める(2)	買い物ごっこをしてカードを作ろう。	買い物ごっこの中で, 既得の知識を活用して, 場面に応じた表現を工夫してカードを作る。
振り返る(1)	カードをしょうかいしよう。	自分のカードを紹介したり, 友達のカードを見たりして, 互いのよさに気付く。

6 本時

(1) 目標(3/6)

目的や場面, 状況等に応じた簡単な語句や基本的な表現を用いて欲しいものを伝え合おうとする。

(2) 指導に当たって

ア 主体的な学びを実現する教師の手立て

やり取りの表現が不足しているモデルを見せることで, 子供に「もっと, こうすればいいのに」という思いをもたせ, 見通しをもって買い物の場面におけるやり取りを工夫させるようにする。

イ 対話的な学びを実現する教師の手立て

買い物の場面でどのような表現が使えるかをグループで話し合わせ, 全体の「学び合い」で考えを共有することで, その後の活動で, やり取りを工夫した言語活動が行われるようにする。

ウ 深い学びを実現する教師の手立て

買い物の場面における店員と客という関係性や数を伝える表現に着目させる発問をすることで, 子供が目的や状況に応じた解決方法を見いだせるようにする。

過程	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
<p>意欲をもつ (10)</p>	<p>1 あいさつをし、チャンツで欲しいものを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>2 やり取りの表現が不足しているモデルを見て、本時のめあてを考える。</p> <p>店員：What do you want? 客：A ○○, please.</p> <p>このモデルを見て、もっとよくなりそうだと思うことはありましたか。</p> <p>店員も客も、言葉が足りないよ。「はい、どうぞ」とか「ありがとう」という表現があるといいのにな。</p> <p>買い物ごっこでは、どんなやりとりを工夫すればよいか。</p> <p>3 本時の見通しをもち、自分のめあてを決める。</p> <p>① チャレンジタイム1 ② 1up time ③ チャレンジタイム2 ④ 振り返り</p> <p>4 グループでチャレンジタイム1を行う。</p> <p>① ホワイトボードに、表現が書かれたカードを買い物のやり取りの順に貼っていく。 ② 店員役と客役に分かれ、①を試してみる。 ③ 表現を加えたり、入れ替えたりする。</p> <p>5 「1up time」グループ同士の考えを比較する。</p> <p>それぞれの班の、同じところや違うところについて、考えを出し合ひましょう。</p> <p>やっぱり「あいさつ」は必要だね。</p> <p>自己紹介は、必要ないんじゃないかな。</p> <p>初めて会った友達には自己紹介をするけど、お店ではどうなのかな。</p> <p>数を伝えたいときはどうすればいいのでしょうか。</p> <p>Two と言えば伝わると思うよ。</p> <p>モデルを見て、数の伝え方を確認しましょう。</p>	<p>☆ ジェスチャーや表情はよいが、“What do you want?”, “A ○○, please.” というやり取りの前後の表現が不足しているモデルを視聴させることで、本時では、買い物の場面での店員と客のやり取りの表現を工夫するという見通しをもつようにする。【主】</p> <p>○ 見通しをもたせた後で、買い物の場面では、どのような表現が使えるようかを「My Goal カード」に書かせ、自分なりの目標をもたせるようにする。【主】</p> <p>○ チャレンジタイム1では、カードの見本を用意し、子供が見本と同じ物を作るのに必要な色・形カードを得るための買い物の場面を設定することで、欲しいものを伝える必然性をもたせるようにする。【主】</p> <p>○ グループごとにホワイトボードと、「はい、どうぞ」や「ありがとう」などの既習の表現が書かれたカードを用意し、店員と客のやり取りの順に並べ、実際にやり取りを試しながら、表現を加えたり、順序を入れ替えたりできるようにする。【対】</p> <p>○ 1 up time では、各グループの考えを書いたホワイトボードを比較し、共通点や相違点を取り上げながら、本当に必要な表現かどうかを話し合い、全体で共有することで、買い物の場面で使える表現についての考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【対・深】</p> <p>○ 買い物の場面での店員と客という関係性に着目させ、目的や状況に応じた解決方法を見いだすことができるようにする。【深】</p> <p>◆ 買い物の場面で、相手との関係性を考慮して、適切な表現を選択している。 g.【思考・判断・表現・話し合いの様子】</p> <p>○ いくつも欲しいときは“Two red circles”のように表現できることを確認し、数を色や形と組み合わせるよう使えるようにする。【深】</p>
<p>楽しむ (30)</p>	<p>あいさつ 自己紹介 何がほしい? ○○, ください はい、どうぞ ありがとう どういたしまして さようなら</p> <p>6 グループでチャレンジタイム2を行う。</p> <p>店員：Hello. How are you? 客：I'm good. How are you? 店員：I'm fine. What do you want? 客：Two red circles, please. 店員：Here you are. 客：Thank you. 店員：You're welcome. 客：See you. 店員：See you again.</p>	<p>☆ 工夫が取り入れられたモデルを視聴させ、考えた工夫が効果的であることを実感し、チャレンジタイム2への実践意欲を高めるようにする。【主】</p> <p>○ チャレンジタイム2では、“Two red circles, please.”のように数を伝える表現を活用したり、ジェスチャーを加えて挨拶を交わしたりしている子供の様子などを把握し、工夫したやり取りを称賛するとともに、表現が不足している子供にはアドバイスをする。【対】</p> <p>◆ 自分の欲しいものが伝わるよう工夫しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度：活動の様子】</p>
<p>振り返る (5)</p>	<p>7 本時の学習について振り返り、次時への意欲を高める。</p> <p>“Here you are.”や“Thank you.”などを使うと、楽しく買い物ができました。</p> <p>いくつも欲しいときには、“Two red circles, please.”のように言えばいいと分かりました。</p>	<p>○ 「My Goal カード」に、自分の目標の達成度や本時の感想を記述させ、自己の成長を振り返るようにする。【主】</p>

第3学年「HAPPY大作戦～カードをおくろう～」本時（3／6）における授業構想シート

本時で期待される子供の姿

主体性	課題を含んだモデルから課題を見だし、解決の見通しをもって、主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。
協働性	コミュニケーションの中での気付きを友達と伝え合うことで、買い物の場面での適切な表現について、自分の考えを広げたり深めたりしている。
創造性	欲しいものを尋ねたり、答えたりする表現に、買い物の場面で使える既得の表現を加えて、自分なりに工夫して伝えようとしている。

本時で育成を目指す資質・能力

買い物の場面で使える表現について、目的や場面、状況等に応じて、自分の考えや思いを伝えようとする。

【思考・判断・表現】

本時で働かせたい「言葉による見方・考え方」

見方（～に着目して）

考え方（思考の枠組み・方法）

店員と客の関係性や数を伝える表現に着目して、グループ同士の考えを比較したり、既得の知識と関係付けたりする。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせた子供の発言の想定と教師の言葉掛け

課題解決で働く「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」

「お店の人」と「お客さん」は、お店で物を売ったり買ったりするとき、どんなやり取りをするのでしょうか。グループの意見を比べて考えてみましょう。



店員と客の関係性に着目して、買い物の場面で必要な表現かどうかについて、グループ同士の意見を比較しながら考えている。



「あいさつ」や「はい、どうぞ」、「ありがとう」はどのグループも一緒だね。「自己紹介」は必要あるのかな。



「自己紹介」は、初めて会う友達にはするけど、お店の人にはしなくてもいいような気がするよ。

相手や場面によって、使う表現も変わってくるんですね。一度にいくつも買いたいという人もいましたね。そんなときは、どのように数を伝えたらよいでしょう。



状況に応じて、既得の知識と関係付けて考えている。



“Red circle, please.”と言いながら、ジェスチャーをして数を伝えたらどうかな。



二つ買いたいときは、“Two, please.”と言ったらいいと思うよ。

では、同じ色形カードがいくつも欲しいとき、どう言えばいいのか、数を表す表現に注目してビデオを見ましょう。



数を伝える表現に着目して、自分の思いを伝えるための方法に気付いている。



“Two red circles, please.”と聞こえたよ。ジェスチャーもしていたから、分かりやすかったな。

数と色と形を組み合わせると一度にいくつも買うことができるようになりましたね。



振り返りにおいて期待される子供の発言や記述

- 色形カードを買うために、自分の欲しいものをしっかり伝えることができました。
- Aさんは、欲しいものをいうときにジェスチャーをしていて、分かりやすかったです。
- 一度に何枚も欲しいときは、数と色と形を組み合わせるとよいということが分かりました。
- どんな相手とどんな話をするかによって、使う表現も違うことが分かりました。